

患者さんへの説明文書（ホームページ記載）

2008年4月1日～2013年3月31日の間に、マイコプラズマ肺炎で治療を受けていた患者さんへ

課題名：マイコプラズマ肺炎診断におけるイムノカードマイコプラズマ抗体と微粒子凝集（PA）法との関連について

背景：

マイコプラズマ肺炎は、微粒子凝集（PA）法が、発症時と回復期の pair 血清で、4倍以上の抗体価の上昇を示す場合に、確定診断されます。この検査法の欠点は、2度採血する必要のある事です。近年、pair 血清が不要の、すなわち1度の採血ですむイムノカードマイコプラズマ抗体という検査法が開発されました。

目的：

イムノカードマイコプラズマ抗体が、本当に正しく、マイコプラズマ肺炎の診断ができるか否かを検討することです。

対象：

初診時のイムノカードマイコプラズマ抗体が陽性の肺炎で、PA法が pair 血清で追跡できた症例です。

方法：

年代別に、イムノカードマイコプラズマ抗体陽性例と、PA法陽性例の一致率を検討します。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では学内研究費のみを使用するため、このような利益相反の状態にはなりません。

この研究は、どこからも資金援助は受けておらず、実施にあたっては、事前に本学の利益相反委員会にて審査を受け、承認を得ており、学会発表や論文公表に際しても、資金に関して公表し、透明化を図ることとしています。

*本研究は呼吸器臨床においては非常に重要な研究であり、対象者については特定されることはありませんのでご心配なさらないでください。また、患者さんに身体的、経済的負担をかけることはありません。研究への参加を希望しない方や不明な点などある方は、お問い合わせください。

【問い合わせ先】

総合内科学 1 教授 沖本 二郎

電話：086-225-2111（内線 3873）

メールアドレス：n.okimoto@med.kawasaki-m.ac.jp